



きこえとことば通信

立川市立第七小学校 校長 島村 雄次郎 立川市立第八小学校 校長 藏重 佳治
 ことばの教室 TEL/FAX 042-527-3627(直通) きこえとことばの教室 TEL/FAX 042-536-9664(直通)

寒い毎日ですが、子どもたちはとても元気な様子で通級しています。3学期もよろしくお願ひします。
 今号は、11月に行った、八小との合同保護者講演会について報告いたします。講師の先生には、感覚統合とは何か、実際の療育での活動、家庭でできること等をお話いただきました。一部ですが内容を紹介いたします。

合同保護者講演会「子どもの育ちと感覚統合～日常のヒント～」

講師：三浦 香織先生(文京学院大学非常勤講師・元首都大学准教授 作業療法士)

感覚統合とは・・・「前庭覚」、「固有覚」、「触覚」という脳の根底部分での感覚情報処理の過程。お腹の中にいる頃から育っていく感覚。これらの感覚と視覚・聴覚が土台となり、情緒が育ち、その先の成長に繋がる。

触覚とは？

自分を防衛したり外の世界を識別する機能

☆触覚に関係している日常の様子

- ・ぬいぐるみなどの柔らかいものが大好き
- ・人混みが大嫌い
- ・後ろから急に触られるのが苦手 など

☆触覚が敏感すぎると・・・

手を使ったがらず不器用になったり、いつも緊張して落ち着かなかったりすることも。



前庭覚とは？

重力、速さ、回転の刺激を感じ、バランスや円滑に見る(手振れ補正)機能

☆前庭覚に関係している日常の様子

- ・ジェットコースターなどスピードのあるものが好き
- ・くるくる回るとすぐ目が回る
- ・動き回るよりじっとして過ごす方が好き など

☆前庭覚が鈍感だと・・・

動かすにはいられなくて落ち着きがなかったり、目の使い方が上手いかず不器用になったりすることも。

固有受容覚とは？

体の位置や力加減、姿勢保持に関する機能

☆固有受容覚に関係している日常の様子

- ・力仕事、重い荷物が大好き
- ・固い食べ物が大好き
- ・しょっちゅう物にぶつかっている
- ・姿勢を保てない
- ・なでようとして叩いてしまう

☆固有受容覚が鈍感だと・・・

姿勢・運動が上手くできずに不器用になったり、自分の体の状態が分からなくて、落ち着かなくなったりすることも。



脳梁は太くなる！？

左右交互の動き(両側統合の動き)をすることで、脳梁が太くなり、脳が落ち着くと言われているそうです。

例えば・・・

- ・目を左右に動かす
- ・ラジオ体操
- ・三輪車
- ・膝を交互に叩く



生活の中で感覚統合を取り入れてみよう！

- 毛布やマットで包み込む(触覚)
- 袋の中身の当てっこ(触覚)
- ブランコやすべりだい(前庭覚)
- バランスボールやブーブックッション(前庭覚)
- 重～い布団をかけて寝る (固有覚)
- 雑巾を使って両手で床を拭く(固有覚) など

★ポイント★

求めている感覚、苦手な感覚を理解してあげることが大切！
無理矢理やらない！
楽しく！気持ちよく！

保護者の方や教員からの質問にも答えていただきました

Q. 感覚統合と聞いて、五感(視覚・聴覚・嗅覚など)のことと思ったが、関係するの？

A. 視覚と前庭覚はセットで考える。「見ることに前庭覚が関わって、それで手を動かそうとする」など。聴覚は前庭覚と近いところにある。関係し合っていて、聴覚障害のある子どもの中には、前庭覚が難しい子どももいる。

Q. 子供が母の匂いを嗅ぎに来て気持ちを落ち着かせている雰囲気もある。感覚統合に関係している？

A. 嗅覚は脳の中にあり、記憶に残りやすい。匂いの影響は大きい。体を動かしたい時に運動できない場合、匂いを用いてみるのもいい。感覚統合の場では、好きな香りを使ってみることもある。

Q. 平日に公園に連れていけない場合に家の中でできること、お手伝いなどはあるか？

A. 子どもが何か刺激を求めてやっていることがあれば、それを合法化させてあげる。「布団を縛ってそれを蹴るのはいい」「ボールコーナーを作る」「ラグビーのタックルのような押すことはいい」のように。大きい子は筋トレにハマる場合もある。家の状況に応じて場所を作ってあげるが、そういう機会が作れたらラッキーくらいの気持ちでいくといい。

Q. タオルケットとかに子どもを乗せるようにしてゆらゆらしているのはどうか？

A. 大きくなったら役割を交代して、親を乗せて引っ張ってもらうのもいい。

保護者の方からの感想(一部)

○感覚統合について初めて知りました。日常生活の中に両側統合の動きを取り入れていきたいと思えます。

○その人にちょうど良い環境はそれぞれ違って、アプローチの仕方もそれぞれ違うことが世の中にもっと認知されれば感覚が敏感だったり鈍感だったりする子が生きやすくなるのかなと思えました。

○子供だけでなく自分はどうか？「やりたい！」「できた！」をたくさん感じる体験を親子でやり、脳梁を太くしていきたいと思えます。

○「嫌だという事を無理にやらせても脳は活性化しない。」という言葉も印象的でした。

○「脳は使うほど発達する。」という教えを希望にこれからも子供と一緒に楽しみながら取り組んでいこうと思えます。

○先生のお話は分かりやすく、帰ってすぐにできることも多々あり、とても勉強になりました。またお話が聞きたいです！

